

相互提案型協働事業実施報告書

和 4年 4.20 受付

第 号

令和4年 4月20日

(宛先) 座間市長

団体 住 所 座間市緑ヶ丘 2-1-30 Neo Ark Bldg. 2-B

名 称 社会福祉法人 足跡の会

代表者氏名 理事長 溝渕信一



市 担 当 課 生活援護課

所 属 長 課長 藤井 浩昌



次のとおり報告します。

1 事業名	無縁遺骨を縁のある遺骨に変え適切に埋葬する事業
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	令和2年度選考 (令和3年度実施)
4 報告期間	令和3年4月1日 から 令和4年3月31日 まで
5 事業費	597,703円 (うち座間市支出分500,000円)
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	<p>今後の状況によっては誰もが亡くなったとき、無縁遺骨になってしまうかもしれない。そんなことを考えた時、まずは近くにいる皆さんに伝いなければと令和3年度は4月より相模が丘地区の地域包括支援センターの方にご協力いただき勉強会を実施しました。また、多くの対象者を抱える生活援護課の会議にて個別相談のご依頼をさせていただき、相談者のご自宅に直接お伺いをして相談を受け、受けた方からは安心したとの評価をいただきました。</p> <p>合祀墓地への埋葬事業については、令和3年度は16柱の無縁遺骨を埋葬することとなりました。しかし、これは無縁遺骨の一部に過ぎません。今後このような遺骨が増えないように更なる事業の強化をしていく必要があると考えます。</p> <p>そんな中、就労準備支援事業「はたらつく・ざま」の皆さんと行っている合祀墓地の清掃ボランティア事業では、無縁遺骨問題について常にコミュニケーションを行い、合祀墓地の必要性や意味、そしてここへの埋葬のされ方次第では無縁遺骨では無くなる事などを知って頂く事が出来たと考えております。リーフレットの配布等を行い、問題を知って頂く活動も行いました。</p>
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	無縁遺骨を有縁に変え適切に埋葬する事業
-----	---------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	
	対象者を集めた勉強会以外は概ね達成できた。	当初、想定した内容については、新型コロナウイルス感染症の影響で、十分にはでなかった。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	
	ケアマネージャーを対象にした勉強会及びケースワーカーを対象にした周知活動により、対象者と直接相談をすることが出来た。具体的にはそれぞれの役割から直接対象者に声かけを行うことにより、信頼度が増し円滑な相談を行うことが出来、解決に導く事ができた。 また、墓地の清掃活動を通じ社会的に孤立している方々にもこの事業の重要性を理解していただく事が出来たと考えています。	パンフレットを活用したPRによって、より多くの市民に事業の目的を周知できた。

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	
	円滑に行うことが出来た。	計画段階から、事業目的や課題に対する共通の認識を持っている。

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適 正 さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	適切だった。	適正であった。
実 施 結 果	設定した役割分担を果すことができましたか。	
	対象者との勉強会は行うことが出来なかったが、そこに関わる周囲の方々への周知活動を行う事ができた。それ以外の役割は概ね果たすことができたと考えています。	新型コロナウイルス感染症の影響で、十分に果たせたとはいえない。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	すべてが協働することで得られた成果と考えています。	成果を上げることができた。

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	<p>(団体の考え)</p> <p>2年目を終了した時点では、対象者には生活保護受給者の割合が多く、日々の相談業務の中でも多くの対象者を見つけることが出来ると感じています。</p> <p>まずは、足元からしっかりと周知をしていく事が重要と感じています。</p> <p>人間の死の場面は一般の人には想像がしにくく、なかなか問題点に気づくことが出来ない可能性があるため、より一層担当課の問題点の理解と協力体制を確立する必要があると考えています。</p> <p>それぞれの役割分担が一層重要になると考えています。</p>	<p>(市の考え)</p> <p>居住支援の事業などと連携し、より生活困窮者支援や市民生活に密接した事業展開が望ましい。</p>

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	双方が日常的に問題と接している中で、必要に応じた調整や見直しが出来たと考えています。	新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、適宜、計画の見直しを行った。
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	前項にもありますが、共通の問題と日常的に接しているので相違ない意見交換ができ、協議も行えた。	対等な立場で協議できた。
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	気づけていると考えています。	立場、特性を理解し、補える関係が築けている。

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果すことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者との勉強会 ・対象者との直接の相談業務 ・合祀墓地の清掃活動を通じ無縁遺骨問題を知ってもらう ・問題を周知するためのリーフレットの作成と配布 ・担当課からの依頼での無縁遺骨の納骨 ・就労支援を通じて無縁遺骨問題の問題提起と解決への足掛かり 	<p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内、関係機関との調整。 ・相談者への周知。